



# Kofax TotalAgility

## 前提条件

バージョン: 8.0.0

日付: 2024-03-13

**TUNGSTEN**  
**AUTOMATION**  
FORMERLY KOFAX

© 2024 Tungsten Automation. All rights reserved.

Tungsten and Tungsten Automation are trademarks of Tungsten Automation Corporation, registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Tungsten Automation.

# 目次

序文.....	5
TotalAgility ドキュメント.....	5
トレーニング.....	5
Kofax 製品のヘルプの入手.....	5
<b>第 1 章：前提条件.....</b>	<b>7</b>
TotalAgility.....	7
サポートされているオペレーティング システム.....	7
最小ハードウェア要件.....	7
ソフトウェア チェックリスト.....	8
権限と特権.....	8
Transformation Server.....	11
サポートされているオペレーティング システム.....	11
最小ハードウェア要件.....	11
ソフトウェア チェックリスト.....	11
権限.....	12
管理者以外のアクセス許可.....	12
レポート サーバー.....	12
ソフトウェア チェックリスト.....	13
権限と特権.....	13
統合サーバー.....	13
サポートされているオペレーティング システム.....	13
最小ハードウェア要件.....	14
ソフトウェア チェックリスト.....	14
Kofax ライセンス サーバー.....	14
ソフトウェア チェックリスト.....	14
Kofax Message Connector.....	15
<b>第 2 章：前提条件ユーティリティ.....</b>	<b>16</b>
前提条件ユーティリティの実行.....	16
<b>付録 A：その他の詳細.....</b>	<b>18</b>
メモリ要件の計算.....	18
WCF サービスの HTTP アクティベーション.....	18

Windows Server 2008 で WCF のアクティベーションを構成する.....	19
Windows Server 2012 で WCF のアクティベーションを構成する.....	19
Windows Server 2016 および 2019 で WCF のアクティベーションを構成する.....	19
インターネット.....	20
インターネット ブラウザ.....	20
Kofax TotalAgility.....	20
統合サーバー.....	21
インターネット インフォメーション サービス (IIS).....	21
Windows Server 2008 での IIS コンポーネントのアクティベーション.....	21
Windows Server 2012 での IIS コンポーネントのアクティベーション.....	22
Windows Server 2016 および 2019 での IIS コンポーネントのアクティベーション.....	22
ネットワーク プロトコル.....	23
Transformation Server のランタイム前提条件.....	23
統合コンポーネント.....	23
KCM プロキシ.....	23
データ アクセス.....	24
Micro Focus Content Manager.....	24
Microsoft Dynamics AX.....	24

# 序文

このガイドでは、次の重要な情報を示します。

- Kofax TotalAgility をインストールするためのシステム要件
- データベース管理要件
- 前提条件ユーティリティの実行手順
- さまざまなインストール タイプ用ソフトウェア チェックリスト

ソフトウェアをインストールする前に、このガイドを完全に参照してください。

## TotalAgility ドキュメント

[Kofax TotalAgility ドキュメント ページ](#)から、オンラインで完全なドキュメント セットにアクセスします。

また、Kofax フルフィルメント サイトから言語ごとに TotalAgility ドキュメントを個別にダウンロードすることで、オフライン モードで TotalAgility ドキュメントにアクセスすることもできます。

完全なドキュメント セットと、オフライン モードでドキュメントにアクセスする方法については、「Kofax TotalAgility 8.0.0 リリース ノート」を参照してください。


## トレーニング

Kofax は、製品を最大限に活用するために役立つクラスルーム トレーニングおよびオンライン トレーニングを提供しています。トレーニング コースとスケジュールの詳細については、Kofax の Web サイトにある [Kofax Education Portal](#) (Kofax エデュケーション ポータル) にアクセスしてください。

## Kofax 製品のヘルプの入手

[\[Kofax Knowledge Portal \(Kofax ナレッジ ポータル\)\]](#) リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Portal で情報を検索することをお勧めします。

[Kofax Knowledge Portal] にアクセスするには、<https://knowledge.kofax.com> にアクセスしてください。

 [Kofax Knowledge Portal] は Google Chrome、Mozilla Firefox、または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[Kofax Knowledge Portal] は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。  
**[Search (検索)]** ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。
- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。  
記事を見つけるには、Knowledge Portal のホームページにアクセスし、製品に該当するソリューションファミリを選択するか、[View All Products (すべての製品を表示)] ボタンをクリックします。

Knowledge Portal のホームページからは、次の操作を実行できます。

- Kofax Community (Kofax コミュニティ) へのアクセス (全カスタマー)。  
[Resources (リソース)] メニューで、**[Community (コミュニティ)]** リンクをクリックします。
- Kofax Customer Portal (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (一部のカスタマーのみ)。  
[\[Support Portal Information \(サポート ポータルの情報\)\]](#) ページに移動し、**[Log in to the Customer Portal (カスタマー ポータルにログイン)]** をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (一部のパートナーのみ)。  
[\[Support Portal Information\]](#) ページに移動し、**[Log in to the Partner Portal (パートナー ポータルにログイン)]** をクリックします。
- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。  
[\[Support Details \(サポートの詳細\)\]](#) ページに移動し、適切な記事を選択します。

## 第 1 章

# 前提条件

サポートされているオペレーティング システムおよびその他の Kofax TotalAgility の要件に関する主な情報源は、Kofax Web サイト ([www.Kofax.com](http://www.Kofax.com)) で入手可能な技術仕様書です。この章では、Kofax TotalAgility ハードウェアおよびシステムの要件に関する追加情報を示します。

## TotalAgility

このセクションでは、Web サーバーとアプリケーション サーバーの両方が存在する TotalAgility サーバーのシステム要件に関する情報を示します。

Web サーバーとアプリケーション サーバーは同じユーザー アカウントを使用してインストールする必要があります。

TotalAgility は、Windows Server 2008 R2 の Hyper-V ロールなどの仮想マシン環境でサポートされています。各仮想マシン (子パーティション) には、TotalAgility インスタンスに必要なプロセッサ リソース、メモリ、ディスク リソースがなければなりません。

SQL サーバーと TotalAgility サーバーは、同じタイムゾーンで実行する必要があります。そうしないと、アクティビティが正しくリセットされないなどの予期しない問題が発生する可能性があります。

## サポートされているオペレーティング システム

Kofax Web サイトの技術仕様書を参照してください。

## 最小ハードウェア要件

コンポーネント	要件
プロセッサのタイプ	x64 プロセッサ: AMD Opteron、AMD Athlon 64、Intel EM64T サポート付き Intel Xeon、EM64T サポート付き Intel Pentium IV
プロセッサ速度	x64 プロセッサ: 2.6 GHz 以上
ディスク容量	4 GB のハード ディスク空き容量 ディスク容量の要件は、インストールする TotalAgility コンポーネントによって異なる場合があります。
メモリ	8 GB
データベース	100 MB

コンポーネント	要件
DVD ドライブ	ディスクからインストールする場合

## ソフトウェア チェックリスト

TotalAgility をインストールする前に前提条件ユーティリティを実行すると、次のソフトウェア チェックが実行され、必要なすべてのソフトウェアがコンピュータにインストールされていることを確認できます。

### Web サーバーとリアル タイム Transformation サービス

- Windows オペレーティング システム (Windows 2008 以降)
- サービスとしてログオン
- IIS (ASP.NET、Windows 認証、固定コンテンツ)
- WCF HTTP アクティベーション

### アプリケーション サーバー

- Windows オペレーティング システム (Windows 2008 以降)
- サービスとしてログオン
- IIS (ASP.NET、Windows 認証、固定コンテンツ)
- WCF HTTP アクティベーション
- データベース作成権限

**i** Kofax Message Connector には、.NET Framework 4.8 が必要です。Microsoft Web サイトから .NET Framework をダウンロードします。

詳細については、「[付録 A](#)」を参照してください。

### Web アプリケーション サーバー

Web アプリケーション サーバーのソフトウェア チェックについては、「[アプリケーション サーバー](#)」を参照してください。

## 権限と特権

### データベース権限

インストール中にデータベースに接続するために必要な権限は、シナリオごとに異なります。

- **データベースを新規作成する場合:** dbo スキーマがデフォルトのスキーマです。デフォルトでは、TotalAgility はデフォルトの SQL サーバー dbo スキーマを使用します。インストール中にデータベースへの接続に使用されるアカウントには、データベースを作成する権限 (dbcreator) が必要です。



- **データベースがまだ作成されていないときにデータベースを上書きする場合:** アカウントは dbcreator ロールである必要があります。
- **データベースがすでに作成されているときにデータベースを上書きする場合:** アカウントには、データベースを保守/上書きする権限 (dbowner) が必要です。

TotalAgility データベースへの接続に使用されるサービス アカウントで必要となる実行時権限は、次に条件によって異なります。

- Windows 認証を使用して TotalAgility データベースに接続する場合、サービス アカウントにはデータベースに対する db\_datareader、db\_datawriter、および実行権限が必要です。新しいデータベースを作成した場合、インストーラを実行したユーザーがインストール後のデータベースの所有者 (db\_owner) になります。
- SQL 認証を使用して TotalAgility データベースに接続する場合、SQL ユーザーにはデータベースに対する db\_datareader、db\_datawriter、および実行権限が必要です。サービス アカウントには、データベースに対する権限は必要ありません。新しいデータベースを作成した場合、SQL ユーザーがインストール後のデータベースの所有者 (db\_owner) になります。

TotalAgility オンプレミス マルチテナンシーのインストール時:

- オンプレミス マルチテナンシーでのデータベース アクセスに Windows 認証が使用される場合、テナント管理システムのデータベース アカウント、つまり Windows アカウント ユーザーには次の権限が必要です。
  - **db\_datareader**
  - **db\_datawriter**
  - **実行権限**
- データベース アクセスに Windows 認証を使用しない場合、テナントを追加するには、テナント管理システムの Web サイトで使用されるアカウントに次の 2 つのデータベース アカウントが必要になります。
  - **データベース作成者:** このアカウントには、テナント データベースを作成する権限が必要です。
  - **ログイン作成者:** このアカウントには、テナントのログインを作成する権限が必要です。

詳細については、『テナント管理システムのヘルプ』を参照してください。サポートされるデータベースのリストについては、Kofax Web サイト ([www.kofax.com](http://www.kofax.com)) で入手可能な技術仕様書を参照してください。

## Amazon S3 の構成に必要な権限

Kofax TotalAgility インストーラを実行するユーザーには、Amazon S3 キャプチャ データ ストレージ サービスのバケットに対する次の権限が必要です。

- s3:ListAllMyBuckets
- バケット所有者

## Kofax TotalAgility コンポーネントを実行する権限

さまざまな Kofax TotalAgility コンポーネントを実行するために必要な権限は、「最小権限の原則」に基づいています。

インストール権限は、TotalAgility の実行に必要な権限とは異なります。TotalAgility をインストールするには、管理者権限が必要です。

すべてのサービス アカウントには特定の権限が必要です。

- ローカル ポリシー権限
  1. 管理者としてログオンし、コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
  2. **secpol.msc** コマンドを実行します。
  3. [セキュリティの設定] で、**ローカル ポリシー** に移動し、**ユーザー権限の割り当て** をクリックして、アカウントに次の権限があることを確認します。
    - ローカルでログオンを許可する
    - サービスとしてログオン
    - トラバース チェックをバイパスする
- ユーザーは ProgramData フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限を保持していて、ドメインに対してネットワーク ユーザー アカウントを列挙する必要があります。AppPool ユーザーが変更された場合は、ProgramData フォルダに対する権限を手動で付与する必要があります。
- 分割 Web アプリケーション サーバーが展開され、Kerberos が使用されている場合、IIS が使用するコンピューターとユーザー アカウントを委任に対して信頼できるようにします。
- Transformation Server サービスを実行するアカウントには、特定の[アクセス許可](#)が必要です。
- Streaming サービスを実行するサービス アカウントには、URL を登録し、その名前空間を予約する権限が必要です。このアカウントが非管理者アカウントである場合、ローカル マシンの管理者はサービス アカウントにこれらの権限を付与する必要があります。TotalAgility インストール ガイドを参照してください。
- ライセンス サービスは、非管理者アカウントで実行できます。非管理者アカウントには、WCF リスナーを開く権限が必要です。非標準ポートの非管理者アカウントで実行している場合は、名前空間を予約する必要があります。そのためには、コマンド プロンプトで、ローカル マシンの管理者権限を持つアカウントを使用して次のコマンドを実行します。
 

```
netsh http add urlacl url=http://+:3581/SAL user=%domainuser%
netsh http add urlacl url=http://+:3581/SALMetadata user=%domainuser%"
```
- 非管理者アカウントでインポート コネクタを実行する場合は、次の権限が必要です。
  - レジストリ権限: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Kofax\KIC-ED\MC の読み取り権限
  - フォルダ権限: ProgramData\Kofax\KIC-ED\MC フォルダ、インストール フォルダ、一時フォルダに対するフル コントロール

## Active Directory 同期の権限

アクティブ ディレクトリ同期の実行に使用されるアカウント (サーバー変数として設定済み) には次の権限が必要です。

- MemberOf を読み取る
- コンテンツを一覧表示する
- メールアドレスを読み取る

- userPrincipalName を読み取る
- 部門を読み取る
- cName を読み取る
- DeletedObjectsContainer を読み取る

**i** 「参照」が必要な場合は、フォレスト全体で同じ属性を調査する権限がアカウントに必要です。

補足:

- このアカウントはドメイン管理者である必要はありません。
- このアカウントは Active Directory で何も作成しません。読み取り専用です。

## Transformation Server

このセクションでは、Transformation Server をインストールする場合のシステム要件に関する情報を示します。

### サポートされているオペレーティング システム

[Kofax TotalAgility に関するドキュメント](#)で入手できる技術仕様書を参照してください。

**i** Transformation Server は、いくつかのランタイム前提条件をインストールします。前提条件ユーティリティは、Transformation Server でインストールされないソフトウェアをチェックします。

### 最小ハードウェア要件

コンポーネント	要件
プロセッサのタイプ	x64 プロセッサ: AMD Opteron、AMD Athlon 64、Intel EM64T サポート付き Intel Xeon、EM64T サポート付き Intel Pentium IV
メモリ	<a href="#">「メモリ要件の計算」</a> を参照してください
データベース	不要

### ソフトウェア チェックリスト

- Windows オペレーティング システム (Windows 2012 以降)
- サービスとしてログオン
- DigiCert Assured ID Root CA 証明書

**i** Transformation Server の場合、TotalAgility をインストールした場所に Transformation Server がインストールされていると、.NET Framework が自動的にインストールされます。Transformation Server または Transformation Designer を TotalAgility とは別にインストールする場合は、サポートされるバージョンの .NET Framework がそのマシンにすでにインストールされていることを確認してください。

詳細については、「[付録 A](#)」を参照してください。また、Transformation Server の[ランタイムの前提条件](#)も参照してください。

## 権限

すべての Windows (Server) オペレーティング システムで Transformation Server オンプレミス マルチテナントを実行するには、管理者権限が必要です。

## 管理者以外のアクセス許可

Transformation Server は、次の非管理者権限を使用してオンプレミスで実行できます。

Transformation Server のユーザーアカウント (TS\_User など) を設定します。

- TS\_User は Windows グループの一部である必要があります。ユーザー。
- TS\_User には、ローカル セキュリティ ポリシーの権限が必要です。サービスとしてログオンします。
- TS\_User には、ロギング用に構成されたログ ファイル フォルダへのフル アクセス権が必要です。(デフォルトでは、インストール フォルダです)
- TS\_User には、次のフォルダへのフル アクセス権が必要です。
  - C:\ProgramData\Kofax
  - C:\Program Files (x86)\Common Files\Kofax\Server

**i** このフォルダには「Kofax.CEBPM.CPUserver.ServiceHost.exe.config」が含まれています。

- TS\_User には、データベースに対する次の権限が必要です。
  - db\_reader
  - db\_writer
  - 実行権限

## レポート サーバー

Kofax Reporting は、運用メトリックと監査データの履歴を一元的に保管します。Kofax レポートには、ETL エージェントやデータベースなどのコンポーネントが含まれます。

❗ Transformation Server はプロセス利用率が高いため (99 %)、Transformation Server と同じマシンにレポート サーバーをインストールすると、「[SQL タイムアウト エラー]」が生成されます。そのため、レポート サーバーは Transformation Server とは分けてインストールする必要があります。

## ソフトウェア チェックリスト

- Windows オペレーティング システム (Windows 2008 以降)
- サービスとしてログオン

詳細については、「[付録 A](#)」を参照してください。

## 権限と特権

- レポート サーバーを実行するユーザーには、「[サービスとしてログオン]」権限が必要です。ユーザーに管理者権限は必要はありません。
- ユーザーは ProgramData フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限を保持していて、ドメインに対してネットワーク ユーザー アカウントを列挙する必要があります。AppPool ユーザーが変更された場合は、ProgramData フォルダに対する権限を手動で付与する必要があります。
- また、Windows 認証が使用されるすべての通信チャンネルで、レポート サーバーを実行しているユーザーが使用されます。たとえば、Windows 認証が SQL Server に使用されている場合、このユーザーにはこのサーバーに対する権限が必要です。そうでない場合、レポート サーバーは機能しません。

## 統合サーバー

このセクションでは、Web サーバーとアプリケーション サーバーの両方が存在するサーバーの統合サーバー システムの要件に関する情報を示します。

❗ 各仮想マシン (子パーティション) には、統合サーバー インスタンスに必要なプロセッサ リソース、メモリ、ディスクリソースがなければなりません。

各仮想マシン (子パーティション) には、統合サーバー インスタンスに必要なプロセッサ リソース、メモリ、ディスクリソースがなければなりません。

## サポートされているオペレーティング システム

サポートされるオペレーティング システムおよび TotalAgility のその他のシステム要件に関する最新情報については、Kofax Web サイト ([www.Kofax.com](http://www.Kofax.com)) で入手可能な技術仕様書を参照してください。

## 最小ハードウェア要件

コンポーネント	要件
プロセッサのタイプ	x64 プロセッサ: AMD Opteron、AMD Athlon 64、Intel EM64T サポート付き Intel Xeon、EM64T サポート付き Intel Pentium IV
プロセッサ速度	x64 プロセッサ: 2.6 GHz 以上
ハード ディスク	最小: 4 GB のハード ディスク空き容量 ディスク容量の要件は、インストールする統合サーバーのコンポーネントによって異なります。
メモリ	最小: 8 GB
DVD ドライブ	ディスクからインストールする場合

## ソフトウェア チェックリスト

- Windows オペレーティング システム (Windows 2008 以降)
- サービスとしてログオン
- IIS (ASP.NET、Windows 認証、固定コンテンツ)
- WCF HTTP アクティベーション

詳細については、「[付録 A](#)」を参照してください。

## Kofax ライセンス サーバー

このセクションでは、ライセンス サーバーに関する情報を提供します。

## ソフトウェア チェックリスト

Kofax TotalAgility で使用する Kofax ライセンス サーバーを正常にインストールするには、次の前提条件を満たしていることを確認します。

- 「サービスとしてログオン」権限は、Windows サービスを実行しているユーザーに割り当てする必要があります。
- Visual Studio C++ 2019 再頒布可能 x86 ランタイムをインストールする必要があります。
- ライセンス サーバーが TotalAgility とは別にインストールされている場合、インストールは昇格された権限を持つユーザーが実行する必要があります。

詳細については、「[付録 A](#)」を参照してください。

## Kofax Message Connector

このセクションでは、Kofax Message Connector をインストールおよび操作するためのシステム要件に関する情報を示します。

コンポーネント	要件
ディスクの使用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーション用に約 2000 MB。</li> <li>転送されたドキュメントを一時的に保存するための追加容量。(サポートされる最大ストレージ サイズ = 250000 MB)。</li> </ul>
サポートされているサードパーティの FAX サーバー	<p>Kofax Message Connector は、次のサードパーティの FAX サーバーからメッセージを接続およびインポートできます (最小バージョンがリストされています)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>RightFax</li> <li>Biscom</li> <li>Kofax Communication Server</li> </ul> <p>サポートされているバージョンの詳細については、TotalAgility 技術仕様書を参照してください。</p> <pre> C:\Windows\System32&gt;regsvr32 "C:\Program Files (x86)\RightFax\Shared Files \rfaxui.dll" C:\Windows\System32&gt;regsvr32 "C:\Program Files (x86)\RightFax\Shared Files\rfcomapi.dll" C:\Windows\System32&gt;regsvr32 "C:\Program Files (x86)\RightFax\Shared Files \rfaxui.dll" C:\Windows\System32&gt;regsvr32 "C:\Program Files (x86)\RightFax\Shared Files\rfcomapi.dll" </pre> <p>RightFax クライアント ソフトウェア バージョン 10.x では、手動登録は必要ありません。</p>
添付のエンコーディング	<p>Kofax Message Connector は、次の Content - Transfer エンコード タイプの添付を認識します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Base 64</li> <li>引用済み - 印刷可能</li> <li>Uuencode/x-uuencode</li> </ul> <p>TotalAgility は Xencode エンコードをサポートしていません。</p>

## 第2章

# 前提条件ユーティリティ

Kofax TotalAgility を使用するには、インストールを続行する前に、特定のソフトウェアをシステムにインストールする必要があります。TotalAgility をインストールする前に、さまざまなタイプのインストールの前提条件ユーティリティを実行し、必要なすべてのソフトウェアがコンピュータにインストールされていることを確認できます。

**i** 前提条件ユーティリティを実行するには、ユーザーに管理者権限が必要です。

## 前提条件ユーティリティの実行

1. インストールメディアの `TotalAgility\Utilities\Pre-requisite Utility` に移動し、**Agility.Installation.Server.Prerequisites** を右クリックして、[管理者として実行] を選択します。
2. [TotalAgility 前提条件の確認] ウィンドウで、[次へ] をクリックします。  
[インストール タイプ] ウィンドウが表示されます。
3. **Web/Application Server** など、前提条件チェックが検出される必要のあるインストール タイプを選択します。  
次のインストール タイプに対して前提条件チェックを実行できます。データベースのみ、Web サーバー/リアルタイム Transformation サービス、アプリケーション サーバー、Web/アプリケーション サーバー、アプリケーション サーバー On-Premise Multi-tenancy、Web/アプリケーション サーバー On-Premise Multi-tenancy、ライセンス サーバー、統合サーバー、レポート サーバー、および Transformation server。
4. [次へ] をクリックします。  
[認証情報] ウィンドウが表示されます。
5. TotalAgility を実行するユーザーの認証情報を入力し、[次へ] をクリックします。  
ユーザーに「サービスとしてログオン」権限がない場合、[次へ] をクリックすると警告が表示されます。



6. データベース ウィンドウで、いずれかのオプションを選択してデータベースを作成します。

- インストール プログラムがデータベースを自動的に作成できるようにするには、**インストール プログラムで自動実行** を選択し、データベース サーバー モードを選択します。

SQL Server (SSL 不使用)	<p>a. <b>データベース サーバー</b> ボックスに、データベース サーバーの名前を入力します。</p> <p>b. <b>セキュリティ</b> で、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows 認証</li> <li>SQL Server 認証 (ユーザー名とパスワードを入力します)</li> </ul>
SQL Azure	<p>a. <b>データベース サーバー</b> ボックスに、データベース サーバーの名前を入力します。</p> <p>b. <b>セキュリティ</b> で、<b>SQL Server 認証</b> を選択し、ユーザー名とパスワードを入力します。</p>

- 手動でデータベースを作成するには、**手動** を選択します。

7. [次へ] をクリックします。

選択したインストール タイプの「ソフトウェア チェック」ウィンドウが表示されます。必要なソフトウェアのリストと、ソフトウェアがインストールされているかどうかが表示されます。

8. 検出されたソフトウェア リストを確認します。

- 必要なソフトウェアの一部がインストールされていない場合、ソフトウェアのチェックはエラーで完了し、自動作成された PrerequisiteUtilityErrorLog.txt にエラーが記録されます。エラーを解決し、結果にエラーがなくなるまでユーティリティを再実行します。
- システムに必要なソフトウェアがすべてインストールされている場合は、**終了** をクリックします。

## 付録 A

# その他の詳細

このセクションでは、統合コンポーネントの前提条件など、さまざまなインストール タイプの追加のチェックについて説明します。

## メモリ要件の計算

Transformation Server を実行しているコンピュータには、複数の抽出グループおよび分類グループをメモリにキャッシュするための十分なメモリが必要です。Transformation Server は、メモリの使用を最大化し、空きメモリを使用して追加の抽出プロセスを実行およびキャッシュします。

Transformation Server には、オペレーティング システムのメモリ要件に加えて、抽出グループおよび分類グループのサイズと利用可能なスロット数に基づいたメモリが必要です。Transformation Server に必要な最小メモリ量を計算するには、次の操作を行います。

1. 利用可能なスロット数を判別します。インストール中に、Transformation Server は次の式を使用してスロット数を自動的に計算できます。

プロセッサ コアの数 \* 1.25

クアッド コア プロセッサの場合、5 つのスロットがあります。

インストール中にスロット数を指定することもできます。

2. 次の式を使用して、メモリの最小量を計算します。

$200 \text{ MB} + (\text{平均抽出プロセスサイズ} * \text{スロット数})$

抽出プロセスサイズは、単一の抽出プロセスに必要なメモリの量であり、分類グループおよび抽出グループの複雑さに依存します。通常、これらは 150 ~ 200 MB ですが、最大で 500 MB になる場合があります。正確なサイズを把握するには、Windows タスク マネージャーでプロセスを調べて、ExtractionProcess.exe のインスタンスを探します。

たとえば、大規模な抽出グループおよび分類グループを処理していて、利用可能なスロットが 5 つある場合、次のように最小メモリ量を計算します。

$200 \text{ MB} + (250 \text{ MB} * 5) = 1450 \text{ MB}$  または 1.42 GB

これらは最小要件です。メモリを追加すると、システムのパフォーマンスが向上します。

## WCF サービスの HTTP アクティベーション

- IIS がコンピュータにインストールされていることを確認します。

- .NET Framework が IIS に登録されていることを確認します。
- IIS で認証が有効になっていることを確認します (Windows と匿名の両方を有効にする必要あり)。

## Windows Server 2008 で WCF のアクティベーションを構成する

1. **コントロール パネル > プログラム > プログラムと機能**にアクセスします。
2. **[Windows の機能の有効化または無効化]** リンクをクリックします。  
Windows の機能画面が表示されます。
3. **Microsoft .Net Framework 4.5.2 Advanced Services > WCF サービス** を展開し、**HTTP アクティベーション** を選択します。
4. **[OK]** をクリックします。  
WCF がコンピュータにインストールされます。ASP.NET が既にインストールされているコンピュータに WCF をインストールした場合は、IIS で ASP.NET を再登録する必要があります。

## Windows Server 2012 で WCF のアクティベーションを構成する

1. タスクバーの **[サーバー マネージャー]** をクリックします。  
サーバー マネージャー ダッシュボード ページが表示されます。
2. **[ロールと機能の追加]** リンクをクリックします。  
**ロールと機能の追加** ウィザード画面が表示されます。
3. **次へ** をクリックします。
4. インストール タイプを **ロール ベースまたは機能ベースのインストール** または **リモート デスクトップ サービス インストール** として選択し、**次へ** をクリックします。
5. ロールと機能をインストールするサーバーまたは仮想ハードディスクを選択し、**次へ** をクリックします。
6. **[サーバー ロール]** タブで **[Web サーバー (IIS)]** を展開し、次の操作を行います。
  - a. **Web サーバー > アプリケーション開発** を展開し、**ASP.NET 4.5.2** を選択します。
  - b. **[管理ツール]** を展開し、**IIS 管理コンソール** を選択します。
7. **次へ** をクリックします。 **機能** タブで **.NET Framework 4.5.2 機能** が選択されていて、**WCF サービス** で **HTTP アクティベーション** が選択されていることを確認します。必要に応じて、TCP アクティベーション、名前付き パイプ アクティブ化など、他のタイプの WCF サービスを追加できます。
8. **次へ** をクリックします。
9. **確認** タブで、**インストール** をクリックします。

## Windows Server 2016 および 2019 で WCF のアクティベーションを構成する

1. タスクバーの **[サーバー マネージャー]** をクリックします。

サーバー マネージャー ダッシュボード ページが表示されます。

2. **[ロールと機能の追加]** リンクをクリックします。  
**ロールと機能の追加** ウィザード画面が表示されます。
3. **次へ** をクリックします。
4. インストール タイプを **ロール ベースまたは機能ベースのインストール** または **リモート デスクトップ サービス インストール** として選択し、**次へ** をクリックします。
5. ロールと機能をインストールするサーバーまたは仮想ハードディスクを選択し、**次へ** をクリックします。
6. **[サーバー ロール]** タブで **[Web サーバー (IIS)]** を展開し、次の操作を行います。
  - a. **Web サーバー > アプリケーション開発** を展開し、**ASP.NET 4.5.2** を選択します。
  - b. **[管理ツール]** を展開し、**IIS 管理コンソール** を選択します。
7. **次へ** をクリックします。**[機能]** タブで **[.NET Framework 4.8 機能]** が選択されていて、**[WCF サービス]** で **[HTTP アクティベーション]** が選択されていることを確認します。必要に応じて、TCP アクティベーション、名前付きパイプ アクティベーションなど、他のタイプの WCF サービスを追加できます。
8. **次へ** をクリックします。
9. **確認** タブで、**インストール** をクリックします。

## インターネット

共有またはリモート ライセンス サーバーを使用している場合、製品コードとシリアル番号を取得するにはインターネットへの接続が必要です。

## インターネット ブラウザ

このセクションでは、サポートされているブラウザに関する情報を示します。

### Kofax TotalAgility

スキャン、ドキュメント レビュー、検証、確認用のキャプチャ対応フォームを除くモバイルフォームは、以下のブラウザの最新バージョンとその直前のバージョン、それらに相当するモバイルをサポートしています。

- Edge
- Chrome
- Safari (オンプレミス マルチテナントではサポートされていません)

キャプチャ フォームは、次のブラウザの最新バージョンをサポートしています。

- Edge

- Chrome (32 ビット)

**i** スキャン対応フォームを表示するには、Web Capture サービスをインストールする必要があります。TotalAgility インストール ガイドを参照してください。

PDF ファイルを表示するには、PDF プラグインをインストールする必要があります。

## 統合サーバー

統合サーバーは、以下のブラウザの最新バージョンと以前のバージョン、それらに相当するモバイルをサポートしています。

- Edge
- Chrome

## インターネット インフォメーション サービス (IIS)

IIS v7 以降が必要です。

- サーバー マネージャーで ASP.NET および Windows 認証を使用して Web サーバーのロールを追加します。
- Windows Communication Foundation(WCF) をアクティブ化するには、ASP.NET 4.5.2 および .NET WCF 4.5 を IIS と共にインストールします。
- IIS をインストールする前に .NET Framework がインストールされている場合は、IIS に .NET Framework を登録する必要があります。コマンド プロンプト ウィンドウで、`C:\Windows\Microsoft.NET\Framework64\v4.0.30319` にある `aspnet_regiis -i` を実行します。IIS が既にインストールされている場合、.NET Framework はインストール中に IIS に自身を登録します。
- サービス拒否攻撃に対する IIS Dynamics IP Restriction を使用します。
- URL Rewrite をインストールし、機密ファイルへのアクセスを禁止するルールを記述します。

**i** 統合サーバーには URL 書き換えは必要ありません。

- デフォルトの Web サイト HTTP バインディング (デフォルト: ポート 80) が存在することを確認してから、TotalAgility をインストールします。

## Windows Server 2008 での IIS コンポーネントのアクティベーション

1. コントロール パネル > プログラム > プログラムと機能 にアクセスします。
2. [Windows の機能の有効化または無効化] リンクをクリックします。
3. World Wide Web サービス を展開し、次の操作を実行します。
  - [アプリケーション開発機能] を展開し、[ASP.NET] を選択します。
  - [一般的な HTTP 機能] を展開し、[静的コンテンツ] を選択します。

- **[セキュリティ]**を展開し、**[Windows 認証]**を選択します。
- 4. **[OK]**をクリックします。  
選択した IIS コンポーネントがコンピュータにインストールされます。

## Windows Server 2012 での IIS コンポーネントのアクティベーション

1. タスクバーの **[サーバー マネージャー]** をクリックします。  
サーバー マネージャー ダッシュボード ページが表示されます。
2. **[ルールと機能の追加]** リンクをクリックします。  
ルールと機能の追加ウィザード画面が表示されます。
3. **次へ** をクリックします。
4. インストール タイプを **ロール ベースまたは機能ベースのインストール** または **リモート デスクトップ サービス インストール** として選択し、**次へ** をクリックします。
5. ロールと機能をインストールするサーバーまたは仮想ハードディスクを選択し、**[次へ]** をクリックします。
6. **[サーバー ロール]** タブで **[Web サーバー (IIS)]** を展開し、次の操作を行います。
  - a. **[Web サーバー]** > **[一般的な HTTP 機能]** を展開し、**[静的コンテンツ]** を選択します。
  - b. **Web サーバー セキュリティ** を展開し、**Windows 認証** を選択します。
  - c. **Web サーバー** > **[アプリケーション開発]** を展開し、**ASP.NET** を選択します。
7. **[次へ]** をクリックします。機能 タブで **.NET Framework 4.5.2 機能** が選択されていて、**WCF サービス** で **HTTP アクティベーション** が選択されていることを確認します。
8. **[次へ]** をクリックします。
9. **確認** タブで、**インストール** をクリックします。

## Windows Server 2016 および 2019 での IIS コンポーネントのアクティベーション

1. タスクバーの **[サーバー マネージャー]** をクリックします。  
サーバー マネージャー ダッシュボード ページが表示されます。
2. **[ルールと機能の追加]** リンクをクリックします。  
ルールと機能の追加ウィザード画面が表示されます。
3. **次へ** をクリックします。
4. インストール タイプを **ロール ベースまたは機能ベースのインストール** または **リモート デスクトップ サービス インストール** として選択し、**次へ** をクリックします。
5. ロールと機能をインストールするサーバーまたは仮想ハードディスクを選択し、**[次へ]** をクリックします。

6. [サーバー ロール] タブで [Web サーバー (IIS)] を展開し、次の操作を行います。
  - a. [Web サーバー] > [一般的な HTTP 機能] を展開し、[静的コンテンツ] を選択します。
  - b. Web サーバー セキュリティ を展開し、Windows 認証 を選択します。
  - c. Web サーバー > [アプリケーション開発] を展開し、ASP.NET を選択します。
7. [次へ] をクリックします。[機能] タブで [.NET Framework 4.8 機能] が選択されていて、[WCF サービス] で [HTTP アクティベーション] が選択されていることを確認します。
8. [次へ] をクリックします。
9. 確認 タブで、インストール をクリックします。

## ネットワーク プロトコル

TCP/IP は、サポートされているネットワーク プロトコルです。

## Transformation Server のランタイム前提条件

ランタイム Transformation Server には以下の前提条件が必要です。

- Microsoft .NET Framework 4.8
- Visual Studio VC ++ 再頒布可能\*\*
  - vcredist\_2019\_x86
  - vcredist\_2019\_x64

\*\*現在マシンで利用できない場合は自動的にインストールされます。

## 統合コンポーネント

### KCM プロキシ

KCM プロキシをインストールする前に、次のいずれかの方法で Web サーバーに URL Rewrite をインストールします。

- Microsoft Web サイトからダウンロードします。
- Web Platform Installer(Web PI) を使用します。Web PI を使用している場合は、手動でインストールするか、コマンド プロンプト ウィンドウで次のコマンドを実行します。

```
C:\[インストール場所]\Web Platform Installer\WebPICmd"\install\accepteula  
\Products:ARRv3_0
```

ブラウザで KCM (Kofax Communication Manager) Interactive のフォーム コントロールが使用されている場合は、Kofax TotalAgility サーバーにホストされているフォームで作成されたクロスドメイン HTTP

リクエストを KCM サーバーに送信できません。KCM プロキシはクロスドメイン通信を許可し、KCM コントロールを使用してドキュメントを生成します。

**i** KCM 機能を使用するには、使用中のすべての Web サーバーでインストーラを実行する必要があります。KCM プロキシ Web サーバーを追加する前に、Microsoft プラグインである Web Platform Installer がインストールされていることを確認してください。

## データ アクセス

Kofax TotalAgility は、OLEDB プロバイダーである Oracle ODAC ドライバーをサポートしています。このドライバーは SQL サーバーに依存しています。64 ビット サーバーの場合は、64 ビットバージョンのドライバーを使用する必要があります。それ以外の場合は、32 ビットバージョンを使用します。TotalAgility は、プラットフォームのバージョンに応じて両方のバージョンをサポートします。

**i** Oracle 32 ビット ドライバーは引き続きダウンロードしてインストールできます。

## Micro Focus Content Manager

- IIS
- .NET Framework
- TotalAgility (オプション)

## Microsoft Dynamics AX

- TotalAgility で作成されたユーザーの場合、展開管理者権限が必要です。
- ユーザーがデフォルトの Deployment Administrator を使用しないで TotalAgility Dynamics AX 統合をインストールする場合、ユーザーは次の条件を満たす必要があります。
  - AX のシステム管理者である
  - CAL のフル アクセス権を持っている。

上記の基準を満たさないと、インストール中に「システムはリクエストを処理できません」というエラーメッセージが生成されます。

**i** 64 ビットのオペレーティング システムと Dynamics AX 2009 32 ビット アプリケーションを使用している場合は、DAX Communicator サイトに関連付けられているアプリケーション プール アカウントを有効にします。IIS Manager で、[アプリケーション プール] > [DAXAppPool] > [AdvancedSettings] をクリックし、[32 ビット アプリケーションを有効にする] を True に設定します。